

# 海女文化継承啓発事業に取り組んでいます

鳥羽市は、日本で一番海女が多い地域ですが、高齢化による担い手不足や漁獲量の減少により、海女漁業そのものの衰退が危惧されています。このような背景から、海女漁業の振興や海女文化の保存・継承、さらにはユネスコ無形文化遺産登録に向けた取り組みを進めることを目的として、「海女振興協議会」が中心となって、今年度もさまざまな事業を展開してきました。

農水商工課水産係 ☎(25)1167

## 海女振興協議会とは

海女漁業のスタイルや海女に関する資源を貴重な地域資源と位置付け、海女漁業の振興、海女文化の振興、海女文化による観光振興を図ることを目的として、平成24年5月に三重県、鳥羽市、志摩市、漁協といった関係団体により設立された協議会です。

## 日韓若者の海女文化交流事業



日韓双方の海女文化を理解し、学生同士の交流を深めることを目的に事業を行いました。

### ●平成27年7月9日～7月15日

韓国からの学生団35人が来日し、海の博物館で鳥羽志摩の海女に関する講義を受けた後、答志島や相差、国崎での散策や、菅島のしろご祭りなどを見学しました。また、答志島では三重大学生も合流し、歓迎レセプションなどで交流を深めることができました。

### ●平成27年9月12日～17日

日本からの学生団と若手海女計30人が訪韓し、済州島・釜山の海女さんや大学、漁村などを訪ねました。海女という共通の資源を通じ、さらなる交流の発展が期待できる事業になりました。

## 海女サミット2015in鳥羽



平成27年11月6日・7日の2日間、鳥羽商工会議所と答志コミュニティアリーナをメイン会場に「海女サミット2015in鳥羽」を開催し、全国や韓国から約150人の海女さんが参加しました。

1日目は、記念講演とシンポジウムが行われ、両国の海女漁業の現状などについてディスカッションされました。その日の夜には、答志コミュニティアリーナを会場に、交流会も行われ、海女さん同士の交流を図ることができました。

2日目は、アワビ稚貝の記念放流の後、「新しい海女の時代に向かって」をテーマとした全国の若手海女によるセッションや、海女小屋の雰囲気を感じ出した会場の中で、全国のベテラン海女による楽しい会話を聞くことができ、全国の海女が力を合わせて海女文化の継承に向けた取り組みを進めることを確認することができました。

海女サミットでのシンポジウムは、全国モーターボート競走施行者協議会からの拠出金を受けて実施しました。また、交流事業および海女サミットについては、公益財団法人日韓文化交流基金の助成を受けて実施しました。